

三上直彦先生を偲んで

山本 亮介（平成 15 年博士課程修了）

昨年令和 2 年 10 月 19 日、一日の勤務を終え、帰路のバスに乗り、ほっと一息をついてスマートフォンを開きました。その時、藤井朱鳥先生（現・量子化学研究室教授）から三上直彦先生の訃報のメールが飛び込んできました。驚きもありましたが、この時が来てしまったかという思いもありました。翌日、勤務先の同じフロアにいた先輩の佐々木俊行さん（平成 11 年修士課程修了）と顔を合わせて、突然のニュースに何ともうまく会話できませんでした。既に、世間がコロナ禍一色、会社も出張規制が課せられており、全国が自由に行き来できなくなっている状態。一方で、世間が変わる前の一昨年の令和元年、ふと思い立ち、先生のご自宅に伺うことができ本当に良かったなと改めて感じました。先生が大学をご退職後、自宅も改築されて、小中学生向けに科学実験を教える塾「ふくろう塾」を設立され、理科教育にご尽力されていると伺っていたので、是非、自分の子供たちにも見せてあげたいとずっと思っていました。ちょうど上の子が小学生 5 年、下の子が小学生 2 年になり、科学の話にも興味を持つかなと思い、一昨年の 3 月末に突然、先生に連絡させて頂きますと快く承知して頂き、4 月末に家族で伺うことができたのでした。

私は平成 6 年に本学化学科に入学し、当時大学院重点化の改革で 3 年後半から研究室配属となったため、平成 8 年 10 月から三上直彦先生の量子化学研究室に配属となりました。この時から、三上直彦先生のご指導の下、レーザー二重共鳴振動分光法による超音速ジェット中の分子クラスターの構造およびダイナミクスの研究に携わらせて頂き、平成 15 年 3 月の博士後期課程修了まで 6 年半の間お世話になりました。当時の量子化学研究室は三上研が発足したばかりで、江幡孝之先生（現・広島大学名誉教授）が助教授、藤井朱鳥先生、石川春樹先生（現・北里大学教授）、前山俊彦先生（現・量子化学研究室助教）が助手でいらして、錚々たるスタッフと、たくさんのレーザーとチャンバーの装置が立ち並ぶ実験室の中で、本当に恵まれた状況で研究をさせて頂きました。まだ大学の独立法人化前で、学生含めて 24 時間誰かが研究室にいて（ごろごろしていた？）、よく遊びよく遊べを実践できた自由な時代でした。私が配属された時は、三上先生は既に実際の実験の現場からは離れておられましたが、いくつも先生が自作された装置もあり、超音速ジェット分光の開発秘話など伺うことができ、また、毎週の雑誌会や報告会、3 月の卒論、9 月の分子構造討論会などの学会に向けて成果をまとめていく中でいつも暖かくご指導頂きました。当時は、研究室では赤外-紫外二重共鳴法による水素結合クラスターの研究が全盛でしたが、私は江幡先生のご指導の下、誘導ラマン-紫外二重共鳴法による分子クラスターの研究に携

わらせて頂きました。夜な夜な高パワーなレーザー光の 3 軸の光軸合わせに苦労しており、毎回、ベンゾニトリルの CN 伸縮振動のピークが見つかる（たいてい見つかるのが昼から始めて夜 9-10 時ぐらいでした）とほっとした記憶があります。疲れて実験室を出て、当時まだ喫煙 OK（*私は非喫煙者）だった通称タバコ部屋（部屋主は石川誠一さん（平成 10 年博士課程修了）、渡邊武史さん（平成 11 年博士課程修了）、松田欣之さん（現・量子化学研究室助教）、松本剛昭さん（現・静岡大学准教授）だったりでしたが。。。）、で積み上がった漫画雑誌を読んでは休憩し、また実験室に入るといった感じでした。そんな研究室生活の中で、何かの実験で徹夜明けで、早朝、大学に出てこられた三上先生に「研究者になってきたな」と笑って励まされたことが懐かしいです。また、夏には、先生のご自宅の庭で研究室全員でガーデンパーティー（私はいろいろ記憶がなくなり、翌朝朝食まで頂いて帰宅するという不肖な学生でした。ちなみにこの朝食も先生が作られていた記憶が。。。）、秋は芋煮会（先生がいつも脂ののったサンマを仕入れてきて最後に焼いてメンバーで食べるのが習慣でした）、12 月は温泉宿での忘年会、3 月は 4 年生卒研の後の打ち上げを国分町にてと、美味しいお酒もたくさん飲みながら、いろんなことを教えて頂きました。今は、会食すら禁じられる世の中で、本当に隔世の感です。そんなこんなで博士の学位審査が終わった後、教授室に呼ばれて、川俣大志さん（平成 15 年博士課程修了）と行きますと、シャンパンが用意されて驚きました。「博士号取得者が出る度に記念に 1 本ずつ出すんだよ」と喜んでおっしゃられていたのが思い出されます。私がアカデミックの世界でなく、民間企業に就職することを決めた時も暖かく支援して頂きました。

令和元年 4 月に仙台のご自宅を訪問させていただいた時には、上述の良くも悪くも昔の楽しい思い出がたくさん蘇ってきました。先生が何年か前から抗がん剤の治療をされているのは伺っており、ご体調の方を心配していたのですが、いつもの優しい笑顔でお迎え頂きました。ご自宅を改築された実験室で、私の子供たちにも生き物の様子など丁寧に説明して頂き、また、ふくろう塾の生徒さんのお話など、奥様といっしょにサンドイッチをご馳走になりながら、半日ほどたくさんお話をして頂きました。ただ塾の開催時間も、体調面から短くしているとのことで少し心配になりました。最後に「泡の出るものも用意はあるよ」とおっしゃってくださいましたが、私はドライバーでしたのでお断りすると、「じゃあコーヒーを入れよう！」となりました。先生が準備されている最中に、昔ガーデンパーティーをしたお庭を拝見していますと、奥様から「今日はとても喜んでるんですよ」とささやかれまして、本当に伺うことができて良かったなと感じました。その後、美味しいコーヒーを頂いて退出したのが、先生との最後の会話となってしまいました。実はその年の 10 月に仙台で量子化学研究室の同窓会が行われたのですが、普通の週末開催で、私が名古屋在住で遠方だったため、欠席に

してしまいました。こんな世の中で、こんなことになるのなら無理してでも行っておけば良かったと未だに後悔しております。今は、ただ、三上先生のご冥福を祈るばかりです。また、少なくとも自分の子供たちには、先生に教えて頂いた科学の大切さ、素晴らしさを伝えていきたいと思っております。